

2012(平成24)年度

# 社団法人ゼンコロ 事業報告書

(2012年4月1日～2013年3月31日)

## 1. はじめに

2008年12月1日に施行された新公益法人制度を受け、ゼンコロは一般社団法人へ2013年4月1日から移行することで申請準備に入ると、2012年3月30日開催の第59回総会で確定させたが、その後、定款の変更その他の準備の都合で、2012年10月26日の第61回総会で2014年4月1日に認可・移行をめざすことで決議し直した。2011年度の課題となった「ゼンコロの今後の運営方針」は、ゼンコロの粘着性、求心性を高めることが重要として、ゼンコロに関する認識の共有化をはかるため運営委員会の体制を刷新することを、2012年5月31日の第56回理事会、第60回総会へ提案された。事務局体制は専任1名でスリム化を図った。

## 2. 具体的な事業内容

- (1) 特定非営利法人日本障害者協議会(JD)へ協議員3名を選出し、9月4日開催の「障害者の就労支援について考えるフォーラムⅣ－ILOなどの国際潮流と日本に問われるもの」など、JDが主催する研修・セミナーに積極的に参加して、障害者福祉に関する課題の共有化を図った。また、JDの社会支援雇用研究会へ引き続き参加し、研究会が9月25日に開催した「障害者労働・雇用国際フォーラム」に協賛金を出し、必要な支援を行なった。
- (2) 「障害者自立支援法訴訟の基本合意の完全実現をめざす会」による活動に引き続き関わり、「めざす会ニュース」を会員法人へ流して課題の共有化を図った。
- (3) 「社会福祉法人会計基準の制定」が2012年4月1日から施行し、2015(平成27)年度にはすべての社会福祉法人が実施しなければならないことから、情報の共有化を図るため研修会を7月18日に実施した。
- (4) 故丸山一郎氏に関する本は、約30人の関係者への取材とテープ起こしを完了し、12月末から原稿作成に着手して3月に初稿が出たが、出版までに至らなかった。2013年度の6月を目途に出版することとしている。
- (5) 2011年3月11日の東日本大震災を受けて、2年目の被災障害者支援として岩手県陸前高田市にあるJDFいわて支援センターへ7月14日から11月25日まで、会員法人から24名を派遣し、延べ168日間、障害者の被災実態調査と生活支援(移動支援、同行支援等)に協力した。また、「ワンコイン募金」を会員法人協力のもと実施して、計941,468円を日本障害者フォーラム(JDF)の「東日本大震災被災障害者総合支援本部」へ、8月30日に寄付をした。
- (6) 暮らす場の課題に関する普及活動は、関係団体の会議開催がなかったため先送りしたが、次年度において運営委員会でその課題を継続して検討することとした。
- (7) 古紙回収の請負事業を中心とする収益事業を引き続き実施し、収益は公益事業に充当した。
- (8) 総会は5月、10月、3月に実施した。理事会は5月、10月、3月に2回の計4回開催した。
- (9) 運営委員会は4月、6月、8月、1月に開催して、一般社団法人移行にかかわることや2013年度事業計画・予算などゼンコロの運営課題に関する提案をまとめ、理事会へ提出した。さらに運営委員会は、ゼンコロの歴史や障害者の今日的課題を中心とした勉強会を、運営委員長を講師として継続して実施した。また、1月は就労移行支援に関する研修会を講師を立てて実施した。

- (10) 「公益法人 平成20年会計基準」の会計ソフトのバージョンアップは、一般社団法人の移行申請を2013年度へ繰り延べしたため、2013年度に延ばすこととした。
- (11) 広報誌を8月、1月に発行した。
- (12) ホームページの更新を適宜実施した。
- (13) ゼンコロ出版の書籍販売は、主にホームページからの注文に対応した。

以上